

2020年3月期決算に関する電話一斉取材 主なQ & A

[連結決算]

Q： 不動産・ホテル事業が第4四半期（1～3月）に減収減益となった理由は。

A： 新型コロナウイルスの影響等によるルミネやアトレの賃料収入の減少や、日本ホテルの宿泊・宴会による収入の減少等のためである。

Q： その他の事業が第4四半期（1～3月）に増収減益となった理由は。

A： JR東日本メカトロニクスにおけるIC関連機器の販売増やJR東日本（単体）の電子マネー収入の増等により増収となった。一方、日本コンサルタンのインド国高速鉄道詳細設計調査費の計上等により減益となった。

[単体決算]

Q： 2020年度におけるコストの考え方とコストダウンの検討は。

A： 2020年度の営業費用は減価償却費等の増要素がある。設備投資は2019年度実績から1割程度の見直しを検討しており、営業費用についても、増加傾向にはあるがコストダウンを検討していきたい。修繕費は3,000億円程度でコストコントロールを行っていききたい。物件費その他は、機械化・システム化の推進や既存経費の単価・量の精査を行っていききたい。なお、2020年度は収入対応経費や警備費等の減要素がある一方、高輪ゲートウェイフェスト、新制服への切換え、損害保険料、JRE POINT 施策、駅業務委託等の増要素がある。

[株主還元]

Q： 自己株式の取得は行わないのか。

A： 新型コロナウイルスの業績への影響が未確定であることから行わない。

[資金調達]

Q： 資金調達の考え方は。

A： 早め、多め、長めの資金調達を行うことを基本の考え方とする。3～4月には商業シヤルペーパー2,400億円、社債1,250億円を発行した。資金調達環境が悪化するリスクも考慮しながら、市場からの調達や金融機関からの借り入れ等、様々な手段を用いて十分な流動性を確保していきたい。

以 上